



こんな本も読んでみましょう

選者：児童文学者 百々 佑利子

作：薫 くみこ

## 「世界一すてきなおくりもの」

雪ばとが、サンタさんにおねがいしたおくりものは？

クリスマスのおくりものは、サンタさんが決めるものです、たいていのばあいは。でも雪ばとは、サンタさんをお願いをしました。「森を町につれてきてください」と。森ごと大いどうさせると、スケールがでかい！それでどうなったのでしょうか。みんながおどります。幸せいっぱいだからです。なぜ幸せだからって？ それは、ものがたりを読んでくださいね。

作：薫 くみこ

## 「ないしょでんしゃ」

赤いでんしゃをうごかした運転士（うんてんし）さんはだれ？

雪のきせつ、「もりのてつどう」は走りません。子どももキツネもソウも、みんなにきれいにしてもらった赤いでんしゃは、冬やすみにはいったはずなのに、ゆっくり走り出した！？ あれれ、だれがうんてんしているのでしょうか。“シーゴトン、ナイショ ナイショ…”と、でんしゃが雪山をのぼりますよ。

詩：島田 陽子  
(小池 昌代編)

## 「うち 知ってんねん」

女の子は、何でも“知ってんねん”なのだ！

そうじをなまける、わっと出てきておどす、わるいあの子なんだけれども、「うちは知って」いる。あの子は、弱い子にはやさしくしてやるってことを。うちのくつを、かくしたりしても、ほかの子のくつはかくさない。あの子、うちのことをかまいたいだけ。ちゃんと知ってんねんと、女の子の直感（ちょっかん）にはだれもかかないません。すてきな詩をあつめた絵本です。

作：  
くすのき しげのり

## 「めがねをかけたら」

どう見える？ 何が見える？ はじめてのめがね。

検眼（けんがん）のけっか、めがねをかけることになり、おりこうになるよとか、かわいく見えるよとか、おとなのはげまはウソっぽくて気がめいります。クラスでからかわれないかと心配なのは、「わたしだけちがう」ってこと。ところが「はじめてのめがねの日」、お母さんも先生たちも——、めがねをかけてよく見えたのは、おもいやりの心でした！